



TITLE:

KUINSを利用した新しい図書館情報サービス計画の実験について

AUTHOR(S):

CITATION:

KUINSを利用した新しい図書館情報サービス計画の実験について. 静脩
1991, 27(3): 6-6

ISSUE DATE:

1991-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37094>

RIGHT:

込んだ検索システム、さらに、ネットワーク環境における分散と統合のあり方、個人データベースと共用データベースの連携など、解決しなければならない多くの課題がある。

情報処理分野のスタッフと共同しながら図書館界のスタッフがこうした課題に取り組むことによって、新しい図書館の姿が生まれてくることが期待できるのである。

KUINS を利用した新しい図書館情報サービス計画の実験について

附属図書館では、本年度より運用が開始された京都大学統合情報通信システム（KUINS）を利用して、本学に所蔵する図書や雑誌の目録を、研究室等に設置された TSS 端末からオンラインで検索できるサービス（TSS オンライン目録検索サービス）をおこなっています（詳細は本誌 VOL. 27, NO. 2 参照）。図書についてはまだ最近の受入分に限られますが、このことによって研究者は附属図書館や最寄りの図書館（室）に行かなくても、研究室から直接、探している図書や雑誌の学内の所在を調査することができるようになりました。

しかしながら、これにより検索できる情報は、図書や雑誌のタイトル、著者、発行所、発行年及び所在に関する情報などの目録情報であり、資料の内容情報は含まれていません。研究者は、究極的にはこれらの内容情報を必要としており、そのためにはその資料を所蔵する図書館（室）に足を運ばなければならないのが現状です。

こうした状況の中で、資料の内容情報をデータベース化して、オンラインで利用者に提供しようという試みが、最近電子図書館構想などの形であらわれはじめています。また、身近な例としては、辞書などの CD-ROM を家庭で簡単に利用できる機器が販売されはじめています。

附属図書館でもこうした要求に対処するため、TSS オンライン目録で検索された資料の内容情報を、KUINS を利用して提供するシステムの検討を進めてきましたが、このたび本年度の「教育研究学内特別経費」で、新しい図書館情報サービスとして、画像情報処理によって資料の内容情報を提供する計画が認められました。

この計画は、附属図書館外国雑誌センター（理工学系）に受け入れる、約1,000種の学術雑誌の

うちのいくつかを選択して、附属図書館に設置する画像処理可能な光ディスク装置に、新着雑誌の内容情報として目次と論文概要（おおむね論文の1項目にある）を、コピーと同様の方法で画像入力し、KUINS を介して、これらを雑誌の目録情報とともに検索できるようにすることを目的としたものです（こうした光ディスク装置を用いた文書の画像情報処理システムを、一般に「電子ファインディングシステム」と呼んでおり、官公庁や企業の文書整理に利用されている）。

当面、専用の検索端末装置を、遠隔キャンパスである宇治五研究所の共通図書室に設置して、新着雑誌の目次や論文概要の画像表示や印刷を行ない、前述の TSS オンライン目録検索サービスとの連動については、目録情報を、附属図書館のホストコンピュータに接続された研究室の TSS 端末で検索し、目次と論文概要を、最寄りの精度の高い G 4 ファクシミリに自動的に出力する計画です（通常の TSS 端末では出来ない）。また、論文全体が必要なときは、利用者のコピー依頼により、附属図書館から最寄りの G 4 ファクシミリに送付しますが、これは従来の文献複写と同じ作業となります（次頁参照）。

この実験が成功すれば、これを吉田地区内の図書室でも利用できるようにする計画であり、利用者は最寄りの図書室や研究室などで、附属図書館で受け入れる雑誌の目次や論文概要が閲覧できるようになります。

このシステムに入力すべき雑誌を選択するために、附属図書館では自然科学系部局を対象に、学内の図書室を通じて研究者の方々にアンケート調査を実施し、現在、調査結果の集計作業に入っています。（システム管理掛）